

町民の期待に応える町づくりへ

《総額約98億 7,343万円可決》

地域交通網対策事業



棚倉町タクシー利用助成事業
(平成30年7月から)

幼稚園3年保育事業



平成30年度より
本格スタートした保育事業

防災拠点公衆無線LAN 環境整備事業



危機管理拠点として庁舎及び保健福祉センター・
文化センターに無線LANを設置する事業

平成30年度に
新たに行う
主な事業です。



平成30年度も引き続き行う主な事業

防犯灯施設整備管理費 (889万円)、ふくしま森林再生事業 (1億8,183万円)
除染対策事業費 (7,091万円)、ふくしまの恵み安全・安心推進事業 (5,624万円)



町長の提出議案説明に聞き入る様子

3月定例会は、3月6日から14日までの9日間の会期で開催されました。平成30年度当初予算や平成29年度補正予算、条例の制定や改正、追加議案の人事案件などについて審議し、すべて原案のとおり可決・同意されました。一般質問(8ページより)では、9名の議員が登壇し、町政を質しました。

平成30年度各会計の予算額

(△は減額表示)

会計名	30年度予算	29年度予算	比較			
			増減比	伸び率		
一般会計	65億1,700万円	64億5,100万円	6,600万円	1.0%		
特別会計	国民健康保険	13億7,043万円	17億3,116万円	△3億6,073万円	△20.8%	
	後期高齢者医療	1億3,947万円	1億3,246万円	701万円	5.3%	
	介護保険	14億574万円	13億5,925万円	4,649万円	3.4%	
	簡易水道事業	3,592万円	4,090万円	△498万円	△12.2%	
	公共下水道事業	3億3,024万円	2億6,591万円	6,433万円	24.2%	
	農業集落排水事業	7,401万円	7,448万円	△47万円	△0.6%	
	霊園整備事業	62万円	64万円	△2万円	△3.1%	
上水道事業会計	収益的収支	収入	4億2,108万円	4億2,130万円	△22万円	△0.05%
		支出	3億5,766万円	3億5,487万円	279万円	0.8%
	資本的収支	収入	1億6,890万円	7,029万円	9,861万円	140.3%
		支出	3億1,079万円	1億9,939万円	1億1,140万円	55.9%

(1万円未満切捨て)

当初予算質疑・討論

予算特別委員会に付託された平成30年度当初予算について、第6次棚倉町振興計画に掲げる各種施策を推進するため慎重に審議しました。

予算特別委員会討論後の採決の様子



一般会計

質問 ふるさと納税について昨年度とあまり変わらないが、取り組みに変化はあったのか。

答弁 (総務課)

取り組みに変わりはないが、29年度の件数では前年と比べると大きく上回り250件となったが、28年度には、大きな額が数件あったため、比較では差はなかった。

質問 子宮頸がんワクチンの接種については過去に事故等の報道がなされたが、それでも接種を受けたほうがいいという話もあるが、これについての町の取り組みと広報活動はしているのか。

答弁 (健康福祉課)

25年度からは積極的に勧奨はしていない。また、広報等についてもお知らせしていないが、いつでも相談を受ける体制は整えている。

質問 30年度から新しい保育園がスタートするが、これにより完全に待機児童が解消されるのか。

答弁 (子ども教育課)

現在の見込みでは、待機児童は発生しない。

質問 タクシー利用助成制度について、どのように見込んでいるのか。

答弁 (産業振興課)

該当されるであろう方が約1,700人を見込み、先進地の実績を参考に利用者を算出し、今年度の約9ヶ月分を予算計上した。

質問 特定不妊治療費助成事業について、近年で何件の実績があり、その成果はどうであったのか。

答弁 (健康福祉課)

27年度9件、28年度13件、29年2月末で8件。その成果(妊娠から出産)については、トータルで10名の赤ちゃんが誕生している。

質問 古い保育園舎については今後どのように考えているのか。

答弁 (子ども教育課)

第1園舎は取り壊しをして、第2園舎として使用を計画している。また第2園舎については、建物は園の所有となるため園が決定する。

質問 震災対策農業水利施設整備事業費の詳しい事業内容は。

答弁 (産業振興課)

ため池が万が一決壊した場合、

下流の民家が被災する恐れのあるため池について、ため池の耐震性の調査を行うものとして、13か所を予定している。

質問 棚倉町農産物ブランド認証事業について、これまでの成果と30年度はどのような成果を求めているのか。

答弁 (産業振興課)

今年度は、4品目が新たに追加され合計13品目がブランド認証された。30年度についても、新たなブランド認証されればそのPRに努めたい。

質問 各家庭に配られている防災無線機が老朽化しているが。

答弁 (住民課)

各家庭のもので使えなくなったものは、その都度無償で修繕や交換をしている。



特別会計

介護保険

質問 居宅介護住宅改修費と介護予防サービス等諸費の介護予防住宅改修費の違いは。

答弁 (健康福祉課)

居宅介護住宅改修費は要介護認定の1から5までの方が対象。介護予防住宅改修費は要支援1と2の方が対象となる。



国民健康保険

質問 保険給付費等交付金の普通交付金と特別交付金の違いは。

答弁 (住民課)

普通交付金は、医療費の支払に係る費用全額を県が市町村へ交付するもの。

特別交付金は、各市町村の財政事情や事業構成などの特殊な事情などで交付されるもの。



質問 観光ガイド育成事業費についての詳しい事業内容は。

答弁 (地域創生課)

主なものとして、専門講師による本町の歴史・観光等の講座。さらには子ども講座等々を行う。また、現在15名の観光ガイドが在籍しており、先進地視察を行いスキルアップを図っている。

質問 総合型スポーツクラブに対する国の補助金は何年まで続くのか。また、この補助金がなくなったら先ほどのように考えているのか。

答弁 (生涯学習課)

補助金は33年度まで。その後については、運営委員会等で検討している。

当初予算採決の状況

一般会計予算の原案をめぐって討論が行われました。

反対1名
賛成11名

反対 鈴木 政夫 議員

平成30年度一般会計予算について反対の立場で討論する。

来年度の予算案の中には、ふくしま森林再生事業の拡充や、町内における地域公共交通の取り組みなど評価できる内容も盛り込まれている。

しかし、棚倉町が直面している問題は人口減少に歯止めがかからず、住民の暮らしと町の将来に重大な問題を投げかけていることにある。その根源となっているのは農林業の衰退と町内で働く場の確保が最大の課題となっている。

そうした中、平成30年度一般会計予算案は、こうした課題に答えているのでしょうか。企業誘致は進まず、子育て支援策の一つである給食費無料化は何の取り組みもされていないなど、直面する課題に答える予算になっていない。

よって反対の態度を表明し討論する。

賛成 和知 裕喜 議員

平成30年度一般会計予算に対し賛成の立場で討論をする。

この予算案は減収と厳しい歳入状況の中で、高齢者と交通弱者に対する地域交通対策費として新たに委託事業を予算化し、また前年度に引き続き地域創生事業をはじめ、里山保全整備事業、観光ガイドの育成事業など、各種事業を予算化している。

その他、子どもたちに向けたキャリア教育を初め、すこやか赤ちゃん応援事業、妊産婦の心身ケアや育児サポートの充実に関する予算も計上され、高齢者福祉予算等も十分に確保しながら、子育て支援をより一層充実させる予算内容である。

したがって、第6次振興計画に掲げる施策実現に向け、町政の継続的な発展を目指そうとしているこの予算案について、私は適切なものと考え賛成の意を表し討論とする。

平成29年度補正予算

主な事業

防犯灯施設整備管理費



防犯灯施設の修繕費等
111万円

管理運営費



文化センター施設整備費等
302万円

3月補正予算の状況

(△は減額表示)

会計名		補正額	補正後の予算額
一般会計		△862万円	65億6,552万円
特別会計	国民健康保険	△4,019万円	16億8,386万円
	後期高齢者医療	779万円	1億4,026万円
	介護保険	△5,961万円	13億5,087万円
	簡易水道事業	△85万円	3,487万円
	公共下水道事業	△133万円	2億8,878万円
	農業集落排水事業	10万円	7,815万円
	霊園整備事業	8万円	72万円
上水道事業会計	収益的収支	117万円	13億8,579万円
	資本的収支	△150万円	2億102万円

(1万円未満切捨て)

その他の条例制定・一部改正等

抜粋

◇ 柵倉町国民健康保険条例の一部を改正する条例
国民健康保険法の改正に伴い、国民健康保険運営協議会の名称などの改正

◇ 柵倉町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例
介護保険法の一部改正に伴い、居宅介護支援事業所の指定権限が都道府県から市町村に移譲されることとなるため、人員及び運営に関する基準を条例で定めるもの

◇ 柵倉町国民健康保険税条例の一部を改正する条例
国民健康保険制度の改正に合わせて課税額の算定基礎をこれまでの医療費総額等から県への納付金を基礎とするもの改正

◇ 柵倉町道路占用料等条例の一部を改正する条例
道路法施行令の改正により、道路占用料が一部改正されたことに準じて、所要の改正をするもの

◇ 柵倉町介護保険条例の一部を改正する条例
平成30年度からの3年間、第7期介護保険事業計画による保険料率の改正

◇ 戸中大岩平辺地に係る公共施設の総合整備計画
平成29年度で計画期間が終了する同地域の辺地計画について、新たに30年度から34年度までの総合整備計画を定めるもの

◇ 柵倉町都市公園条例の一部を改正する条例
都市公園法施行令などの改正により、都市公園内の運動施設敷地面積の割合を条例で定めることとされたことによる改正

陳情

● 柵倉町商工会助成事業費補助金要望について
提出者 柵倉町商工会 会長 立石 誠

● 「福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求める意見書提出の陳情」(JCSN)
提出者 日本労働組合総連合会 福島県連合会東白川地区連合会 議長 小針弘之

人事案件

人事案件について、全会一致で同意されました。任期は、平成30年7月1日から3年間です。

人権擁護委員候補者の推薦



原 啓喜さん (富岡)



吉田和賀子さん (北町)



町政を問う

3月定例会では9人の議員が登壇し質疑を行いました。
1人の制限時間は60分、一問一答方式で行われます。
行政全般について町民の身近な課題や町政発展に係る質問を活発に議論しています。

1 佐川裕一 議員 …… 9ページ

1. 主食用米の生産数量目標配分の廃止をふまえた農業政策は
2. 給食行政は
3. 歴史的建造物の保存と活用は
4. ごみ行政は

2 藤田智之 議員 …… 10ページ

1. ウォーキングによる健康づくりの推進は
2. 道路の支障木や日陰対策での伐採の推進は
3. 本町における働き方改革は
4. 整備計画、振興計画、など様々な計画の管理と活用は

3 鈴木政夫 議員 …… 11ページ

1. 公共交通機関発足の準備状況は
2. 田楽橋周辺の町道整備はどこまで進んでいるのか
3. 旧白棚線跡の払い下げについて見解を求めたい

4 藤田光子 議員 …… 12ページ

1. 保育園と棚倉町との係わりは
2. 各小学校に夜間照明の設置をしては
3. 水郡線を利活用する活性化を考えては

5 菊池忠二 議員 …… 13ページ

1. 道路の日陰対策は
2. イノシシ対策は
3. 町道整備の計画は
4. 国道118号線と町のご真ん中の御本城を結ぶアクセス道路の計画をすべきと思うが

6 和知裕喜 議員 …… 14ページ

1. 遊休農地、耕作放棄地解消策は
2. 防犯灯・道路照明灯は
3. 旧白棚線自動車道の払い下げ活用は

7 佐藤喜一 議員 …… 15ページ

1. 地域経済活性化に道の駅の導入は
2. 新たな住宅セーフティネット制度の導入は
3. 老人介護の現状と今後の施策は

8 須藤俊一 議員 …… 16ページ

1. 経営所得安定対策事業は
2. 観光行政は
3. 企業誘致の状況は

9 古市泰久 議員 …… 17ページ

1. 森林再生事業（平成30年度から平成32年度）の取り組みは
2. 児童・生徒の通学に関する施策は
3. 学校運営協議会（コミュニティスクール）制度の導入の見解は



問 減反廃止をふまえた農業政策は 答 農家経営の安定に努めていく



国の減反廃止により、今後大きく変わる可能性もある米作り

問 国主導の生産数量目標配分（減反政策）の廃止による国・県の農業政策はどうか。
町長 国からの配分は廃止されるが、福島県は、福島県水田農業産地づくり対策等推進会議から、市町村農業再生協議会へ市町村ごとの作付面積の目安が提示される。

問 給食費の値上げを検討実施している自治体もあるが、本町では。
教育長 天災による野菜の高騰など、一時的な理由で値上げの検討はしていない。
問 材料費を抑える為の工夫は。

問 補助金の打ち切りに対する町の考えは。
町長 経営所得安定対策等交付金のうち、米の直接支払交付金は廃止になるが、水田活用の直接支払交付金や産地交付金制度は平成30年度以降も変わらないため、加工用米や新規需要米の作付け面積の維持、拡大により、高水準で米価が安定するよう、県やJA等と連携し、農家経営の安定に努めていく。

問 給食費の無償化等ほど
答 現時点で、無償化に向けての検討はしていない

問 歴史的建造物の保存と活用は
答 歴史的に価値の高い建造物は、保存を図っていく

問 歴史まちづくり法、歴まち認定とは何か。当町の歴まち認定までのスケジュールは。
町長 国の各種事業制度等を活用しながら「歴史まちづくり」を進める事業で、歴史的風致維持向上計画を策定し、国の認定を受けるものである。スケジュールは、平成28年度から3ヶ年をかけて、歴史文化基本構想を策定。また、平成30年度に棚倉城跡の国の指定史跡に向け、現在調査を継続。



保存を検討すべきものも多い個人所有の歴史的建造物

問 個人所有の歴史的建造物への対応は。
教育長 歴史的に価値の高い建造物は、詳細な調査を実施するなどして、保存を図っていく。



佐川 裕一

問 ウォーキングによる健康づくりは 大変効果があると認識、推進したい

問 健康寿命の増進策として、ウォーキングの積極的な推進は、総合型地域スポーツクラブの活用やイベントなどの取り組み、企業や商工会との連携などは。

町長 誰でも容易に取り組み、大変効果があると認識、今後、より効果的な推進を図りたい。県のアプリ事業や将来は企業などとの連携も推進していきたい。

教育長 補助金を利用し2000人の参加で、スイーツウォーキングを開催、十分な成果があった。また、ノルディックウォーキングは、月1回開催しているが、より充実に要請したい。

問 国、県道での町の協力は、ネットワークを密に積極的に取り組みたい



スウィーツウォーキングの状況

の交渉など町が前面に立つて取り組むべきではないか。

町長 今年度、支障木の伐採を16箇所、日陰対策を1箇所実施し、効果を確認できた。日常の道路パトロールや各行政区より要望で状況を把握し計画的に実施したい。国県道についても、県南建設事務所、柵倉土木事務所と連絡を密にして、積極的に交渉などに行きたい。

問 人事評価制度の導入は 平成28年度より実施

問 人事評価制度の導入はどのような状態か。公表などはされているか。女性の活躍を進める制度などは進められているか。非正規の職員も大事なパートナーと考え、待遇改善等も考えるべき時期に来ているのではないか。

町長 平成28年度から人事評価を実施しており、目標設定から始まり、能力評価、業績評価を行っている。総務省の指針に基づき実施の有無についてホームページ上に公表している。平成28年に女性活躍推進法に基づく5ヶ年計画で女性職員の活躍の推進に関する特定事業主行動計画を策定、女性職員の活躍推進に向けた体制の整備や数値目標を掲げている。非正規の職員は、日々の業務の中で重要な方々であり、平成32年の会計年度任用職員の導入に向けて、県か

らの詳細な情報が示された段階で順次、任用方法、勤務条件、条例や規則など整備していく予定。



藤田智之

問 町の様々な計画は、広く公開されているか
答 担当課で閲覧が可能でありホームページなどでも公表



日陰対策事業の伐採

問 町内公共交通発足の準備状況は 答 タクシー利用料金の一部助成を実施

問 公共交通機関発足の準備については、巡回バスやデマンド交通、タクシー利用など検討し来年度実施するとの表明があったが、現在はどこまで進んでいるのか。

町長 検討の結果、タクシー利用料金の一部を助成する制度として実施することとした。

検討の経過については高齢者の利用を基本に65歳以上で自動車運転免許証のない方及び自主返納をされた方、重度障害で要介護4と5の認定を受けている方を予定している。

運行開始は、本年7月を目指しており、助成額はタクシー利用料金の初乗り運賃に相当する510円を利用券として交付し、年間48枚の2万4480円の助成。

問 地域に関係なく1枚510円とのことだが、街から遠いところ、街中に住んでいる人など、今後様々な反応が出てくると思うが、臨機応変に検討を加えてもらいたい。

産業振興課長 利用の方法等については検討して利便性を助長していきたい。より良い町独自の地域公共交通になるように努めたい。

問 田楽橋周辺の町道整備 答 買収単価の折り合いが進み早期合意を図る



買収単価の折り合いが進み早期整備が期待される田楽橋周辺

問 田楽橋周辺の町道整備は、長い間の問題であり、度々一般質問で取り上げてきたが、現在までの交渉の経過は。

町長 平成29年度において、道路に隣接する地権者の土地を買収するため買収単価の交渉を重ねてきた。その結果、買収単価の折り合いが進んできたので、買収面積を確定するため測量立ち入りの了解を得ることができ、今年の1月より国土調査で確定している境界の復元測量と筆界未定地内の境界について、当該地権者と現地での立ち会いを求め、合意が得られれば買収面積が確定し、買収金額の総額を提示し早期合意が得られるよう努力する。

問 旧白柵線跡地の払い下げに見解を求め 答 多額の費用をかけ、道路化する考えはない

問 旧白柵線跡の払い下げは地元の要望もあり、これまでも取り上げてきたが、払い下げは考えていないとの答弁が繰り返されてきたが現在はどうの様な考えか。

町長 道路として一般の利用に供することについては、現在の考えについては土地利用計画など状況に変化がない中で、多額の工事費用をかけて道路として一般の利用に供することは考えていない。



鈴木政夫



問 保育園と棚倉町との係わりは

答 規定で運営費の支払いをしている

問 棚倉保育園と行政との関係はどの様に行使されているのか。

教育長 保育園は社会福祉法人が運営しており、すべて法人の裁量に委ねられている。本町としては児童福祉法及び支援法の規定により保育実績に基づき運営費の支払いをし新園舎建設には子育て支援の目的で財政面での援助をしている。



新しくスタートした保育園

問 新園舎に移転する第二園舎の建物や敷地についての関与は。

教育長 建物は棚倉保育園の所有なので処分は園が決定することとなり、土地は町所有の普通財産のため賃貸・売買を含め管理していく。

問 土地利用について町としての考えは。

教育長 最終的には保育園が建物をどうするかにもよるが、町自身が何かに利用する考えは持っていない。

問 各小学校に夜間照明の設置を

答 利用状況の推移を見て検討したい

問 現在ある夜間照明は棚倉運動広場のみであるため、平日の夜間にスポーツ少年団が活動する場所がない。

各小学校に照明施設を設置することで活動する場を増やし、また

仕事を終えてから指導にあたる方々の活動しやすい環境を整えるためにも必要であると思うが。

教育長 学校施設は、学校を運営するうえで必要な設備を備えており、一般的には社会体育に係る照明設備は整備していない。町としては棚倉運動広場の利用推進を促し、今後の状況の推移を見て学校施設における照明設置の必要性について検討したい。

問 夜間照明の設置により非常時における地域住民の緊急避難所として活用できるのではないかと。

町長 各学校の校庭は災害時の避難施設となっており、夜間に備えた照明として停電しても確保できる移動式の照明器具で対応することになっている。

問 棚倉運動広場の南側の照明灯についてどのような判断をされているのか。

生涯学習課長 現在、調査中で費用がどれくらいか。今後の必要性を検討している段階である。

問 水郡線を活用する活性化の考えは

答 水郡線利用の向上は要望実現に重要

問 水郡線沿線地域との交流による利活用を考えては。

町長 県内11市町村で構成されている水郡線活性化対策協議会を組織し利用促進活動に努めている。

問 駅前のJRバス関東敷地は、地域創生課長 今のところ利用の目的、財源もない。将来に向け検討し内部調整をしている。



藤田光子

問 日陰道路の凍結対応は

答 業者へ委託が職員による融雪剤散布

問 今季、幼稚園児や低学年の子が通園通学時に道路の凍結で非常に危険であったが。

町長 塩化カルシウムを町道の凍結箇所散布する行政、町民の方に配布し要望があれば事前にも配布可能で更に解消しなければ業者委託又は職員による融雪剤散布で対応している。

問 昨年と今年への対応の違いは、整備課長 融雪剤の設置箇所を60箇所から81箇所へ。又、業者委託や職員の融雪剤散布などの回数も増やした。

問 降雪後の除雪対応マニュアルは。

町長 大雪が予想される場合は職員が待機、パトロールを実施、状況確認し概ね5センチ超時、早めの除雪を実施している。

問 イノシシ対策、生息数とその推移は

答 県全体で平成26年度時約4・9万頭、各市町村での推定はされていない

問 4年間で5千頭に減らす県の目標の達成は可能か。

産業振興課長 28年度の捕獲数は176頭、県から目標数の指示は来ていない。

問 捕獲員の現在の状況は。

産業振興課長 28年度17名に委嘱、非常勤特別職で万が一事故があった場合町の損害賠償保険で補償される。

問 イノシシは天敵がなく古来より人間の狩猟対象であったし食肉として商品価値は高いが。

産業振興課長 28年度持ち込まれたイノシシ肉の簡易分析の結果46〜510ペクレルのセシウムが検出され出荷制限されている。将

来は牡丹鍋などの需要が想定されるが流通に必要なジビエ用解体施設が必要。

問 第6次振興計画に沿った町道整備は欠かせないか

答 補助金などを活用し要望路線、通学路など緊急度が高いと判断した路線を実施計画に計上、実施していく



見通しの悪い社川グラウンド東側交差点

問 玉野逆川線と風呂ヶ沢堤線の交差点は毎年数件の重大事故が



菊池忠二

発生通学路でもあり点滅から通常の信号に変えるべきでは。

町長 通学路安全対策推進協議会や行政区の要望があれば公安委員会に要望していく。

問 当町から公安委員会への要望箇所は何箇所あるのか。

住民課長 7箇所。

問 上台堤線の大字堤の変則5差路の改良整備予定は。又、通勤者の声や企業等の要望も考慮すべきでは。

問 観光客を導く国道118号バイパスから御本城跡への直線アクセス道路を計画すべきでは

答 考えていないがアクセスについては調査研究して行く

問 遊休農地、耕作放棄地解消策は

答 利用調整が進み遊休農地等の改善に

問 遊休農地、耕作放棄地の農地全体に対する割合と面積は。

町長 遊休農地等の面積が約320ha、約16・6%。

問 農地中間管理機構における農地の利活用の現況は。

町長 今年度は農地売買事業が個人で2件、農業法人設立に伴う農地貸借事業の借り手が1法人。

問 農業委員会、農地利用最適化推進委員の現況は。

町長 農業委員は総会で議案審議や農地のパトロール。農地利用最適化推進委員は農地転用許可申請や農振地域除外申請等の現地調査、総会での現地調査の状況報告、農地の利用状況等のパトロール。

問 耕作放棄地で山林化した農地の対策は。

町長 現況確認証明申請により農業委員及び農地利用最適推進委員等による現地確認を経て農業委員会の議決後、農地ではない旨の



利活用が待たれる遊休農地

証明をする。

問 薬草栽培等を行い農業振興や遊休農地の改善の取り組みは。

産業振興課長 当然必要であり、ある植物を独自に商品化し遊休農地を発生させない対策を考えている。

町長 柵倉町の土地の中で有効なものがあれば取り入れていきたい。

問 防犯灯・道路照明灯設置は

答 優先順位をつけて予算の範囲内で設置をしている

問 防犯灯、道路照明灯の現在の設置数は。

町長 防犯灯が1,263基、道路照明灯が155基設置。

問 平成29年度の防犯灯、道路照明灯の新設置数は。

町長 防犯灯を19基設置、照明灯の新設はありません。

問 防犯灯、道路照明灯のLEDは何灯か。又、全体の割合は。

町長 平成23年度新設分及び灯具の交換分からLEDを採用。新設分で106基、修繕分で201基を設置、防犯灯が24%、道路照明灯が1・3%。

問 防犯灯、道路照明灯の設置要件は。設置要望の仕方は。



和知 裕喜

町長 要件は防犯灯、概ね50m以上の間隔で設置し、道路照明灯は概ね60m以上の間隔で設置。設置要望は行政区長が申請する。

問 旧白柵線自動車道の払い下げ活用は

答 道路として利用することはない

問 払い下げを受けて、自転車道や歩行者道として活用する考えはあるのか。

整備課長 別な目的や用途で利用を検討する必要はあると考えているが、自転車道や歩行者道としての利用は考えていない。

町長 いろいろな形で考えていくことは可能なのではないか。



問 地域経済活性化に道の駅の導入は

答 複合型的な施設を考えている

で活用していきたい。

問 町が出資している「まち工房たなべら」の現在の活動状況は。

町長 テナントの賃貸事業や町駐車場の管理受託、町ブランド認証商品の販売、まちづくり事業。

問 町からの出資金額とその残高は。

産業振興課長 株式申込証拠金として2千万円支出しているが、残高については把握していない。

問 JA東西しらかわが運営する「みりよく満点物語」の盛況を考えると、地域活性化の手法として道の駅は必要とされるのでは。

地域創生課長 経営はJAだが、柵倉町ブランド認証商品等も置いて頂いている現状であれば、現在、町として道の駅構想はない。

問 今後、町の観光推進事業の拠点となる場所はどこなのか。

地域創生課長 今回、地方創生拠点整備交付金により八槻都々古別神社脇に施設をオープンしたの



来場者100万人を達成した「みりよく満点物語」

問 今から道の駅構想を準備しておけば将来の地域活性化の拠点となるか。

町長 道の駅に関しては、私も大変関心を持っており、町として取り組む際には、農業、商業だけでなく、林業や観光、更には防災活動もできる複合型的な施設が適していると考えている。

問 町としての住宅セーフティネットワーク対策は

答 町営住宅の長寿命化計画で対応する

問 住宅セーフティネットワーク対象となる世帯は。

町長 独居高齢者世帯、生活保護世帯などで、611世帯がある。

問 今回の基本計画で、福島県では平成37年までに1万6千戸の住宅を確保とあるが町の対応は。

整備課長 平成36年を目標とし、町営住宅を基本としながら200戸を整備していきたい。

問 老人介護の今後の施策は

答 介護保険料への影響を考慮しながら検討

問 今後、団塊の世代が高齢者となってくるのは事実なことであり、現在でも施設が不足しているが、今後の対策は。



開所して3年が経過した「ほたるの里」



佐藤 喜一

町長 現時点では新たな施設の予定はないが、施設の利用状況やニーズの推移を把握し介護保険料への影響を考慮しながら検討する。

問 少子高齢化は今後加速すると予測するが、小学校を統合し、その空いた用地に介護施設を計画しては。

健康福祉課長 一つの提案として検討する。

問 経営所得安定対策事業は

答 団地化育成モデル事業を見直す

問 柵倉町第6次振興計画で、平成31年度から飼料用米の団地化育成モデル事業10アール1万5千円が削除されている理由は、

町長 本来の目的とかい離してきたことから米価安定のためにも新たな町独自の米需給調整事業の検討を始めたため。

問 福島県の中でも他の市町村に誇れる団地化育成モデル事業の削除は農家の意欲と町の農政に対する信頼を失うのではないかと、

町長 現在の集落団地化育成モデル制度は見直す、水田活用直接支払交付金、産地交付金は変わらないため高水準で米価が安定するよう福島米オール特A獲得を推進し農家経営の安定に努めていく。

問 町長としては、平成31年度からの削除はやむを得ないとの考えか。

町長 飼料用米の推進については必要だと思いが、農家の方々への支援の仕方は考えていかなければ。

ばならない。平成31年度からの施策見直しの議論は今年1年間かけて行う。

問 観光行政について、なぜ小京都なのか
答 京都とは歴史的なつながりがある



観光PRに努めているのぼり旗

問 柵倉町が掲げる小京都なぐらに名乗り出た背景は、

町長 本町と京都の縁は、初代柵倉藩主立花宗茂公、初代柵倉城主丹羽長重公が京都の大徳寺を介して関わりがあり、その住職が流罪された地が柵倉であったことによるもの。

問 今年は戊辰戦争から150年となり、それに合わせて計画されているものはあるのか。

教育長 節目の年になることから、一般財団法人自治総合センターのシンポジウム助成事業を活用し戊辰戦争や柵倉藩の武士道をテーマにしたシンポジウムを計画している。

問 原動機付自転車等の柵倉町ご当地ナンバーの発行割合はどれくらいか。

町長 平成27年度の導入開始からの交付枚数は238枚。平成29年度の登録台数に占める割合は16.7%。

問 企業誘致の状況は
答 推進員の方から情報提供があった

問 企業誘致推進員の情報提供及び活動内容は、
町長 企業誘致ガイドを配り活動していただいている。

問 設備投資をして事業拡大したくても人が集まらないと聞くが
町長 柵倉町無料職業相談所に求人登録している企業の方々から応募がなく人手不足との声もある。

問 情報提供、意見交換の場を企業誘致推進員と設けては、
町長 3月に商工会主催により経済講演会、企業交流会を開催する。



須藤 俊一

問 森林再生事業の取り組みは

答 平成30年度より3ケ年で240ha実施

問 各年度の事業計画と事業手続は、

町長 平成30年度は120haの同意取得と測量設計事務。31年度には120haの森林整備と新たに120haの同意取得。32年度には120haの森林整備を行う協議を福島県としている。

問 採択基準の設定はあるのか。
町長 施業区域内の同意取得がおおむね得られる地区、1団地30ha程度の施行面積が確保できる地区、公益的機能が低下した山林等優先順位をつけ森林整備を行っている。

問 3ケ年で240haの事業計画は固定化されたものなのか。
町長 状況の変化により検討している。

問 今回、要望書の取りまとめの期間が非常に短かった。提出が間に合わなかったという話を聞いている。申請件数と総面積の結果



間伐整備が必要な山林

は、産業振興課長 18地区。面積は約500haを見込んでいる。

問 要望書の申請について、30年度以降はないのか。
産業振興課長 3ケ年間の事業については、今回の要望の中で選定している。

問 高野地区の中学生のスクールバス対応はいつからか

答 昭和46年4月に中学校が統合し、昭和49年度からスクールバス運行を行っている経過がある

問 なぜ、高野地区だけスクールバス対応をしたのか。
子ども教育課長 当時の事情の資料が残っていないため、はっきりとしたことが分からない。

問 4kmを超える双ノ平、上平沢地区の小中学生に対するスクールバス対応の独自の検討とは何か。
教育長 全的にスクールバス運行の必要性や利用者負担等、様々な課題について検討を進めている。

問 教育委員会でスクールバス運行等について、検討や協議された経緯はあるのか。

教育長 全町的な観点からの通学支援については、素案が出来ていないので教育委員長の議題としては協議していない。

問 学校運営協議会制度の導入への検討に対する見解は
答 平成30年度に1校が導入する予定となっている

問 現在、福島県内で何校が導入されているのか。
教育長 8市町村で、小学校が21校、中学校が9校導入されている。

問 町長の見解は。
町長 学校を核として地域づくりを推進していきたい。



古市 泰久

議会の活動状況を報告します

(平成29年1月1日～12月31日)

定例会・臨時会

会議	開会	閉会	会期	傍聴者数	一般質問	
					登壇人数	質問件数
第1回(定例会)	3月8日	3月17日	10	26	9	30
第2回(臨時会)	5月25日	5月25日	1	5	—	—
第3回(定例会)	6月13日	6月15日	3	65	8	26
第4回(定例会)	9月12日	9月15日	4	60	9	29
第5回(定例会)	12月13日	12月15日	3	29	6	23
合計			21	185	32	108

提出議案数

	種類	件数
町長提出	条例	22
	予算	30
	決算	9
	専決処分	8
	その他事件	27
	合計	96
議員提出	条例	0
	意見書	1
	決議	0
	規則/その他	9
	合計	10



予算特別委員会設置の様子

委員会等開催状況

区分	委員会	開催日数
常任委員会	総務常任委員会	2
	厚生文教常任委員会	11
	建設経済常任委員会	10
	広報編集常任委員会	13
議会運営委員会		7
特別委員会		3
議会全員協議会		7

平成29年度に参加した主な研修会等

5/31	全国町村議会議長・副議長研修会	10/26	東白川地方町村議会議長会議員研修会
6/2	福島県町村議会議長会定期総会	11/1~2	全国監査委員研修会
7/27	東白川地方町村監査協議会総会	11/22	第61回町村議会議長会全国大会
8/23	福島民報「地域づくり交流会」	2/1	福島県町村議会議員研修会
9/24	県南地方総合防災訓練	2/23	東白川地方町村議会議長会議員研修会



議長から、委員長・副委員長へ賞状及びトロフィーの伝達を行いました。



受賞した議会だより(155号)

◎第32回町村議会広報全国コンクールの表紙写真において、「銀賞」を受けることができました

定例会において「総務・厚生文教・建設経済」の各常任委員会において、所管事務調査を行うことが決定されました。
このことにより、次の事件名によりそれぞれの委員会で活動し調査していきます。

【総務常任委員会】

事件名：各種税金の滞納実態と、その解決策について

【厚生文教常任委員会】

事件名：幼稚園バス・スクールバス運営の現状と課題及び、通学支援の現状と充実について

【建設経済常任委員会】

事件名：町道鹿子山・沢目線田楽橋周辺の改良工事に係る経緯について

議員発議により「通年議会調査特別委員会」を設置

現在まで、議会運営委員会の視察研修及び議員全員で県内の只見町議会・小野町議会へ伺い通年議会の取り組みについて研修を受けてきました。

このことにより、本町議会においても通年議会を導入するか否かを決定するため、議長を除く12人の議員で特別委員会を設置し、今後、調査・研究していきます。

○委員長 鈴木政夫

○副委員長 古市泰久

他委員は議長を除く議員



言わせて一言

人を・心を・時をつなぐたなぐらまちに

住む皆様にご意見、ご感想を伺いました。

私は、社川地区でコンビニエンスストアを経営しています。

数年前から税金の支払いをコンビニエンスストアで出来るようになり、お客様の利用が増えたことにより、お店の活性化に繋がっているように思いますが、もう一つ増えたのが高齢者宅への配達です。今までは週に1件くらいだったのが、現在ではほぼ毎日のようにあります。

そういった中、昨年、棚倉町からお昼限定で高齢者宅へのお弁当配達の委託を受け、社川地区に限らず広範囲に渡り配達をしています。

これからは更に高齢者が増えると思いますので、今以上に棚倉町が住みやすく高齢者にも優しい町になるように微力ながら携わっていったらと思います。

逆川にお住まいの
藤田 辰之進さん



松木にお住まいの
須藤 茂子さん



高齢化と人口減少の中で、町内でも交通弱者が多くなってきています。この中で私は全町を対象とした巡回バスの運行を要望していました。

しかし、最近のお知らせ版を読んで町としてはタクシー利用に対する助成事業であると分かりました。町として取り組みを始めたことは一歩前進したと評価していますが、私の考えとはかけ離れていました。

マイクロバスを町内全域に巡回させ、定額で誰もが利用できるようになるかと期待していたのでとても残念です。

今後の事業を再検討して町民の望む事業内容にさせていただけたらと思います。

住みやすい、住んでみたい「棚倉町」へ、お互い頑張っていきたいです。

あなたも議会を傍聴しませんか



傍聴の手続きは役場庁舎3階の傍聴席入口で住所と名前を書くだけで、どなたでも傍聴できます。

●6月定例議会日程のお知らせ(予定)

正式日程は、6月上旬開催予定の議会運営委員会で協議されます。

6月13日(火) 開会・本会議	6月14日(水) 一般質問	6月15日(木) 一般質問・閉会
-----------------	---------------	------------------

編集後記

例年になく早い満開の桜を眺めながら、広報編集委員になって初めての編集後記を書いています。

3月の別れの悲しみも4月の入園、入学式では子ども達から喜びを沢山もらいました。

この「議会だより」が皆様のお手元に届く頃には新緑の季節となり、日本の四季の素晴らしさを感じることを思います。

広報編集常任委員会

委員 須藤 俊一



広報編集常任委員会

委員 藤田 智之	副委員長 鈴木 政夫	委員 古市 泰久	委員 須藤 俊一	委員 藤田 光子
----------	------------	----------	----------	----------